

新南陽の景況感

調査概要

調査対象期間 2025年7月～9月（現状）における景況感と、2025年10月～12月（今後）における景況感見通し

調査対象 新南陽地域の企業66社

調査方法 商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目 「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

全体の業況DIは前回よりもさらにマイナス幅が悪化している。今後3カ月の先行き見通しでは業況DIが改善しており、緩やかな回復へ期待。

新南陽地域の2025年7月～9月期の業況DIの全産業合計値は▲57.6%となり、前期調査（2025年4月～6月期）よりもマイナス幅が13.6ポイント増大（悪化）した。

しかし、全業種で設備DIが持ち直している。

全国の「第181回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況DIのマイナス幅は0.5ポイント増大（悪化）した。

新南陽地域の今後3カ月先行き見通し業況DI全産業合計値は改善の見通しとなっている。全国の今後3カ月の先行き見通し「第181回中小企業景況調査」の全産業合計値のプラス幅は2.2増

加（改善）する見通しとなっている。

商工会議所L O B O 調査2025年9月によると、公共工事や設備投資が底堅く、一部では猛暑特需もみられるなど明るさがある。一方、残暑による外出控えや物価高で飲食・宿泊、食料品関連は弱く、衣料品や生鮮品でも需要の減退や仕入高騰が課題となっている。全体として、受注の堅調さがみられる分野がある一方、消費停滞や人手不足による制約も残り、業況はまだまだ現状が続いている。

【卸・小売業】
売上高DIの項目のマイナス幅が悪化している。改善している項目は無い。

業況DI、採算DI、仕入単価DI、資金繰りDIは前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）。

【製造業】
売上高DI、仕入単価DI、従業員DIのマイナス幅が悪化している。

採算DI、資金繰りDIの項目は前回と比べて悪化している。

【サービス業】
売上高DI、売上高DI、採算DIは前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しでは業況DIが改善している。

業況DIは改善している。

今後3カ月の先行き見通しでは業況DIがプラスに転じている。採算DIのマイナス幅は縮小（改善）している。

設備DIのマイナス幅が拡大（悪化）する見込み。

最低賃金引き上げに伴う負担が増加。主要顧客の需要低迷等の報告有り。

【サービス業】
採算DI、資金繰りDIの項目は前回と比べて悪化している。

仕入単価DI前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）。

設備DIは前回に引き続き100%を維持している。

今後3カ月の先行き見通しでは採算DIのマイナス幅は縮小（改善）している。

【飲食・宿泊業】
売上高DI、資金繰りDIは悪化する見込み。

業況DI、売上高DI、採算DIが悪化している。

仕入単価DI、資金繰りDIは前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しでは業況DIが改善する見込み。

燃料費・人件費の高騰・人材不足・従業員の高齢化等の報告有り。

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = (増加・好転などの回答の割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化)

売上：(増加) - (減少)

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-57.6	-45.5	-100.0	-66.7	-71.4	0.0	33.3	33.3	-66.7	-100.0	-100.0	-100.0	-50.0	0.0
売上高	-42.1	-37.9	-77.8	-50.0	-75.0	0.0	33.3	0.0	-25.0	-33.3	-100.0	-100.0	0.0	-33.3
採算	-82.4	-70.4	-100.0	-75.0	-100.0	-50.0	-60.0	-50.0	-75.0	-100.0	-100.0	-100.0	-33.3	0.0
仕入単価	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
従業員	88.9	89.5	100.0	100.0	100.0	33.3	100.0	100.0	33.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	50.0	42.9	100.0	100.0	50.0	33.3	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	-100.0	-100.0
資金繰り	-88.2	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0

※前年比…2025年7月～9月と前年同月の比 見通し…今後3ヶ月（2025年10月～12月）の見通し

会員の声

【製造業】

- ◆個人消費低下。
- ◆最低賃金引上げに伴うパート社員の人件費及び社会保険料の増加により会社の支払い負担も増える。又、新入社員獲得の為、初任給と既存社員の給与の見直しが必要となっている。
- ◆主要顧客の需要低迷の長期化を賃上げ影響による収益悪化。
- ◆ステンレス需要の低下。

【飲食・宿泊業】

- ◆顧客高齢化により、営業が厳しい。
- ◆メニューのセット分離、米をはじめとする全体的な値上げを実施。
- ◆働き方改革により、人手不足なのに働かせられない。最低賃金上がる事によって週4日出れた人が週3日に。働く側ばかり良くなっているが、経営者はどうすれば良いか。

【運輸業】

- ◆地域経済と経営上の問題点。燃料費の高止まり、最低賃金の上昇に対する政府の補助のハードルが高すぎる。従業員の高齢化（従業員がいずれは不足する）など課題は山積み。
- ◆近年の物価高騰および人材費増である中、お客様の生産性・計画の見直し等を受け、単価交渉が進んでいない。その一方で時間外削減も進める必要があるが、単価交渉が進まず人手の補充も困難な状態。
- ◆船員不足で採用活動に苦慮している。船員給与増加で荷主交渉に苦慮している。

業況DI、売上高DI、採算DIは悪化する見込み。

人手不足、最低賃金等の影響で経営の圧迫。顧客の高齢化が営業に影響等の報告有り。

【建設業】
業況DI、売上高DI、採算DIはマイナス幅が悪化して▲100%（全事業者が悪いと回答）。

仕入単価DI、資金繰りDI前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しでは変動する項目は無い。

人材不足、物価高の影響があるとの報告有り。

【運輸業】
業況DI、売上高DI、資金繰りDIの項目は前回と比べて悪化している。

仕入単価DI、設備DIの項目は前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）。

採算DIのマイナス幅が縮小（改善）している。

今後3カ月の先行き見通しは売上高DIがマイナスに転じている。

業況DI、採算DIが改善する見込み。

燃料費・人件費の高騰・人材不足・従業員の高齢化等の報告有り。